

海から海へ

No.1 2003.11.19 【編集人】特定非営利活動法人
海から海へ 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町
4-2-11 エビスビル401 燦葉出版社内
TEL. 03-3241-0049 FAX. 03-3241-2269
Email: office@umi.or.jp URL: <http://umi.or.jp>



秋のサファリパーク 1167x910 c1994 Mizuki Tanaka

海から海へ は、「みずき美術館」を設立いたします。
海からいただいたものを海へお返しする活動の一つです。

ごあいさつ

菊薫る候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、特定非営利活動法人 海から海へ は、本年7月8日内閣府へ設立申請後、3ヶ月の公告期間を経て10月1日内閣府生活局から認証を得ました。10月7日東京法務局にて登記をし、法人としての設立手続きを完了いたしましたことをご報告いたします。設立に当たり、多くの皆様から暖かい励ましをいただきましたことを、役員を代表し厚く感謝申し上げます。

海から海へ の事業は主に皆様からの会費とご寄付で成り立ちます。会員には正会員、協力会員、賛助会員の3種があります。(正会員のみ社員と言います。社員は総会へ出席する権利があります。)

会員の皆様には会報をお届けします。会報「海から海へ」では、事業のご案内と成果の報告などを年4回お知らせいたします。

私たち 海から海へ は、どの人も大切にされるための方法を考え、実践したいと思いません。すてきなものに感動し、そこからネットワークが生まれ、人と人がつながって新たなものを生み出し、ともに育っていく場となるよう活動をしていきたいと思えます。

私たちはみな、大切に思われる誰か、話を聞いてもらえる誰かを必要とします。「面白いね」と笑い、「悲しいね」と泣いてくれる相手が必要です。誰もがみな、お互いその相手になることが可能です。私たちはそのお手伝いをさせていただきます。

新しい活動ですから、皆様とともにいろいろな形で勉強をしながら進みます。まず、東京都と新潟県から活動をスタートさせます。皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2003年11月19日

特定非営利活動法人 海から海へ
理事長 阿部公輝

年会費：正会員 3,000円以上
協力会員 1,000円以上
賛助会員(団体) 30,000円以上

振込先

口座名称：特定非営利活動法人
海から海へ

郵便振替：00110 - 0 - 684539
または

銀行口座：みずほ銀行 調布支店
普通預金 8082621

ご寄付の場合も上記宛にお願いします。

特定非営利活動法人(NPO)とは？

今日、社会福祉、健康、医療、教育、環境、芸術、文化などにおいて、行政でも企業でも解決できない多くの公共的な問題があります。そのような分野において、民間団体が、政府や企業と対等な立場で社会活動ができるよう法人格を得たものが、民間非営利組織(Non-Profit Organization, NPO)です。法人とは、社会的活動の単位となっている組織体であって、民法上の契約主体としての権利能力を与えられたものです。非営利とは、利益を関係者に分配するのではなく、事業に再投資することを意味します。

民間非営利組織には、1896年民法34条で規定された財団法人・社団法人 1951年社会福祉法などで制定された社会福祉法人・学校法人・宗教法人・医療法人など 1998年特定非営利活動促進法(NPO法)で制定された特定非営利活動法人の3種があり、の特定非営利活動法人をNPOと言うのが一般的です。NPO法は1995年の阪神淡路大震災での個人や市民団体などの活躍がきっかけで制定されました。

NPOには、社会的信用が得られ公的助成が受けやすいこと、営利目的ではないことを理解してもらえるなどの非営利法人に共通のメリットに加え、縦割りの主務官庁を持たず、柔軟な活動が可能であり、認可にあたり基本財産を要求されないなどの特徴があります。

活動の分野

海から海へ は、NPO法で規定された12分野の市民活動のうち、次の10分野の活動を行います。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 男女共同参画社会の形成
- (8) 子どもの健全育成を図る活動
- (9) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (10) 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

具体的には、現在以下のような事業を予定しています。

こころとふくしの相談室

2004年開設予定 東京都調布市

現代社会においては、悩みのない方はほとんどいないといっても過言ではありません。悩みは人間の発達に意味のあることですが、ストレスを抱えるような状態になれば、対処が必要になります。その解決のためには、社会的な制度や知識も必要となります。また、信頼のおける熟達した心理臨床家から、それぞれの方が人の価値を認識し、意味のある人生へ向かうための支援を受け取ることも必要になります。

当相談室では、不安な心理状態のまま、長年悩み続けておられる方、カウンセリングは

敷居が高いとお考えの方、また進んで専門的援助を受けたいと望まれる方はもちろんのこと、最近の事件でも論議のあった発達障害を持つ子の親やその関係者、さらに、不登校、ひきこもりについても、専門家がご相談をお受けします。

誰でもお気軽に来訪できるよう、相談室の立地にも配慮いたします。

カウンセリングのほかに、自律訓練法、ブレセラピーや言語治療など有効な心理的療法やガイダンスを受けることができます。

どうぞお気軽にご連絡ください。

連絡先: ai@umi.or.jp

相談内容の例

- ・ 育児
- ・ 発達障害、障害をもつ人の地域生活
- ・ 不登校、ひきこもり、思春期、教育
- ・ 人間関係、自己、ストレス、不安、うつ
- ・ 夫婦、家庭、親子、嫁姑
- ・ コミュニケーション、恋愛
- ・ 暴力、依存
- ・ 会社、仕事
- ・ その他

グループホーム《きく》

2004年開設予定 新潟県寺泊町

障害をもつ人が、地域で安心してその人らしく生き生きと暮らすための一つの方法として、グループホームがあります。私たちは、知的障害者グループホームを開設する予定です。

新潟県寺泊町は、日本海端にあります。「春、暖かな風に吹かれたとき、海も背伸びをしているように見えました。夏、ほてった体を波に包ませ、青い空と白い入道雲をいつまでも目で追ったあの日のこと。秋、海水浴客が帰った後の浜辺を、ひとり歩くのが好きで帰宅が遅れ、母に叱られました。冬、季節風が荒

れ狂い、十メートル以上の高波が赤い灯台を飲み込みます。ドキドキしながらあきずに眺めていました。今でも鮮やかに、海のシーンが蘇ります」(田中愛子、田中瑞木「絵はコミュニケーション」燦葉出版 1998)と書かれた場所です。



その地には、障害をもつ子どもの母親になった娘を気遣い、長い夏休みには孫を預かりかわいがった故長濱菊江さんが住んでいた家があります。このたびその家が、グループホームとして使用されることになりました。現在、海から海へ は開設の準備をすすめているところです。

生まれてきた意味は皆同じ、上下もない、貴賤もない、美醜もない、強弱もない、男も女もない、障害のある人もない人も同じ人間、とのメッセージを、海から海へ は《きく》の場から発していければと思います。



おばあちゃんと海到くん
727x606 c1988 Mizuki Tanaka

みずき美術館

この会報の表紙は毎号、田中瑞木さんの絵で飾ります。瑞木さんの60余点の絵がいつでも誰でも見られるように、みずき美術館を設立する準備をしています。ご協力をお願いします。

役員

本法人の役員です。どうぞよろしくお願いたします。

理事長	阿部公輝
副理事長	阿部愛子
理事	白井隆之
同	本間康浩
同	山川徹
監事	高安幸子

編集後記

海は私たちの故郷です。大事な海のことはいつも忘れていません。今日も明日も明後日も私たちが謙虚になる日を海はじっと待っています。海は今までとは違う価値観をもって、ゆっくりでもいいと、そして平らで豊かなところを学びなさいと、教えてくれます。

春夏秋冬、「海から海へ」は皆様に海からの伝言をお届けいたします。これからもご期待ください。(愛)

特定非営利活動法人 海から海へ

Eメールアドレス：office@umi.or.jp

H P アドレス：<http://umi.or.jp>

2003年11月19日 海から海へ No.1

発行責任者 阿部公輝

〒182-0026 東京都調布市小島町 1-1-1 RD504

Tel 0424-87-2398 Fax 0424-87-7534